

報道関係者各位  
プレスリリース



2021年01月08日  
√K Contemporary

**梅津庸一監修 絵画の本質に触れる企画展**  
**「絵画の見かた reprise」1/16～神楽坂のアートギャラリーで開催**

若手作家から物故作家までの総勢約30名、約50点あまりの作品を展示販売

√K Contemporary(ルートKコンテンポラリー／東京・新宿)は、2021年1月16日(土)～1月31日(日)にかけて、梅津庸一監修の企画展、「絵画の見かた reprise」を開催いたします。



## 絵画の見かた reprise

本展は2020年12月号の美術手帖に掲載された梅津庸一監修の巻頭特集「絵画の見かた」を副読本とした企画展で、梅津氏を中心とした「絵画の見かた reprise展」実行委員会が主催となり、開催するものです。同特集に掲載された若手作家から物故作家までの総勢約30名、約50点あまりの作品を一堂に会し、展示販売いたします。

本展は様々なジャンルや世代の作家たち約30名の作品を通して絵画の「見かた」そして、見取り図を解きほぐし、再構成しようという試みをしています。もっともベーシックな芸術表現である「絵画」をある一つの視点から観るのではなく、多角的に見る事で、「絵画」の持つ性質や特性、そして取り巻く状況や慣習を改めて見直していきます。

新型コロナウイルス感染拡大により、私たちの生活様式やアートを取り巻く環境が変化している今、オンラインでアートを見るという機会が増え、直に作品を見るという事が貴重な体験となってきています。このような状況下で、改めて「絵画」の実存性を認識し、人と絵画、さらには絵画と絵画の関係性を考察するものです。

今回の企画・監修を手掛けた梅津庸一氏は、「本展が自分なりの『絵画の見かた』を考えるきっかけになれば」と語っています。

多様なジャンル、世代の作品を通して、ぜひ「絵画」を再発見してみてください。

## 【企画・監修 | 梅津庸一】

梅津庸一は1982年山形県生まれの美術家。東京造形大学絵画科卒業。

ラファエル・コランの代表作《フロレアル》を自らの裸像に置き換えた《フロレアル(わたし)》(2004-07)や、同じく自身がモデルとなり、黒田清輝の《智・感・情》(1897-90)を4枚の絵画で構成した《智・感・情・A》(2014)など日本の近代洋画の黎明期の作品を自らに憑依させた自画像をはじめとする絵画作品などで知られる。

そのほか自身のパフォーマンスを記録した映像作品、ドローイング、陶芸、自宅で20歳前後のメンバー複数人と共に制作/生活を営む私塾「パーブルーム予備校」(2014-)の運営、自身が主宰するパーブルームギャラリーの運営と企画、テキストの執筆など活動は多岐にわたる。一貫して美術が生起する地点に関心を持ち、作品の内側とそれを取り巻く制度やインフラの両面からアプローチしている。

主な展覧会に、個展「未遂の花粉」(愛知県美術館、2017)、「恋せよ乙女!パーブルーム大学と梅津庸一の構想画」(ワタリウム美術館、東京、2017)、「パーブルータウンでパープリズム」(パーブルーム予備校ほか、2018)、「百年の編み手たち -流動する日本の近現代美術-」(東京都現代美術館、2019)、「フル・フロンタル 裸のサーキュレーター」(日本橋三

越 MITSUKOSHI CONTEMPORARY GALLERY、2020年)、「平成美術：うたかたと瓦礫  
デブリ 1989-2019」(京都市京セラ美術館、2021年)。作品集に『ラムからマトン』(ア  
ートダイバー)。美術手帖 特集「絵画の見かた」(2020年12月号)の監修。

**【美術手帖「絵画の見かた」特集掲載号、会場にて販売！】**

本展を楽しむには欠かせない副読本、美術手帖2020年12月号を会場にて販売いたします。  
買い逃した方はぜひお買い求めください！

<美術手帖 2020年12月号 特集「絵画の見かた」>

定価 : 1,600+税

発行 : 美術出版社

発売日: 2020年11月7日

同誌編集長・望月かおる氏による同特集のEditor's Noteはこちらからご覧ください。

<https://bijutsutecho.com/magazine/insight/23043>

**【本展のハイライト】**

(1) 杉全直、岡鹿之助、木下晋、梅津庸一、弓指寛治、池田剛介、安藤裕美…

物故作家から新進の若手までを一気に楽しめる！

戦後の絵画史に名を残す物故作家から、期待の若手作家までの作品を観る事ができる貴重な  
機会です。ジャンルや世代を超えた展示はどんな「絵画」の可能性を見せてくれるのか、ぜ  
ひ発見してみてください。

(2) コレクター秘蔵の作品も展示！

中園孔二などのコレクター所蔵作品が今回特別に出展。めったに見る事の出来ない作品を直  
に楽しめるチャンスです。

**【梅津庸一監修「絵画の見かた reprise」展 開催概要】**

企画展名 : 梅津庸一監修「絵画の見かた reprise」展

英題 : Approaches to Painting - reprise, Curated by Yoichi Umezu

会期 : 1月16日(土)~1月31日(日)\*会期中、月曜定休

会場 : √K Contemporary(ルートKコンテンポラリー)

Address : 東京都新宿区南町6

Tel : 03-6280-8808

Email : [info@root-k.jp](mailto:info@root-k.jp)

URL : <https://root-k.jp>

出展作家 : 星川あさこ、塩川高敏、島田章三、高松ヨク、西村有未、

梅沢和木、梅津庸一、青木陵子、若松光一郎、  
カジ・ギラスディン、落田洋子、KOURYOU、安藤裕美、杉全直、  
田中秀介、たんぱく質、服部しほり、藤松博、石井海音、ペロンミ、  
中園孔二、弓指寛治、木下晋、海老澤功、池田剛介、續橋仁子、  
小野理恵、しー没、リチャード・オードリッチ、岡鹿之助

主催 : 「絵画の見かた reprise」実行委員会

企画・監修 : 梅津庸一

企画協力 : 美術手帖

会場協力 : √K Contemporary

企画展HP :

美術手帖 公式 → <https://bijutsutecho.com/exhibitions/7176>

√K Contemporary 公式 → <https://root-k.jp/exhibitions/yoichi-umezu-approaches-to-paintings-reprise/>

＊コロナウイルス感染拡大状況により、開催内容が変更となる可能性がございます。何卒ご了承ください。

#### 【会期中のご来場について】

新型コロナ感染拡大防止対策のため、場内混雑を避けるため入場制限をさせていただきます。

何卒ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

#### 【会場 | √K Contemporaryについて】

√K Contemporary(ルートKコンテンポラリー)は、2020年3月に神楽坂にオープンした、これからの日本のアートシーンの創出と発展を目指して創られた次世代型アートギャラリーです。

加島美術が所有する新たなアートコンプレックスの1、2階にあり、2フロアで約300m<sup>2</sup>という都内最大級の展示スペースを有するギャラリーとなっています。

長年古美術を通して先人達の素晴らしい美術品に触れ、磨かれてきた感性だからこそ見える次世代のアートシーンがあります。その為に時空や国境に関係なく本質の芸術に触れる場を作りたい、という思いからこのギャラリーは誕生しました。

戦後から現代、そして未来を担う若手まで、幅広くアーティストを紹介し、これからの次世代に向けてアートシーンを創造していく場として、選りすぐりのアーティストの個展はもちろん、√K Contemporaryにしかできないユニークな企画展を開催していきます。

---

#### 【プレス関係者向けプレビュー開催のご案内】

本展のプレビューを下記の通り開催いたします。

当日は、企画・監修の梅津庸一をはじめ、その他出展作家も在廊予定です。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご予約制とさせていただきます。

ご参加される方は、下記までご希望のお時間と人数をお知らせください。

何卒ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。

<梅津庸一監修「絵画の見かた reprise」プレビュー>

日時：1月15日 15時～20時(時間制・要予約)

会場：√K Contemporary(新宿区南町6)

参加申し込み先：√K Contemporary

担当：渡邊

Tel：03-6280-8808

Fax：03-6280-8809

Email：pr@sei-rin.com

【本リリースに関するお問い合わせ先】

√K Contemporary(運営：SEI-RIN Co.,Ltd.)

東京都新宿区南町6

担当：渡邊

Tel：03-6280-8808

Email：pr@sei-rin.com

URL：root-k.jp

## プレスリリース画像



絵画の見かた reprise



梅津庸一 プロフィール写真